

GMO INTERNET GROUP

2024年12月期 通期決算説明会 質疑応答の要約

2025年2月12日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループCEOの熊谷より回答させていただきました。なお、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●連結

【Q1】 25年12月期の進行期の営業利益の目線をどのように考えているのか？従来どおり連結で15%増益というのが一つの目安になっているのか？

【A1】 進行期は、タイ証券事業の撤退費用もなくなり、岩盤ストック収益も順調な拡大が見込まれることから、15%成長を超え、かなり力強い利益成長が期待できると考えています。

●グループ経営

【Q2】 本日、GMOリサーチ&AIとGMOタウンWiFiの再編の発表があったが、今後もグループ内での再編の動きは続いていくと考えてよいか。また、その場合、この動きはグループ全体の収益拡大へどのような影響を及ぼすのか？新たな価値創造へ繋がらうのか教えてください。

【A2】 はい、今後も社会的な構造変化を踏まえ、最適なフォーメーションに組み換えを図り、グループ経営の進化を加速してまいります。「55カ年計画」においてインターネット革命は後半戦に入っており、対競合の観点からより事業強化が必要です。また、AI技術革新による業界変革の加速を踏まえ、スピード経営がより求められています。競争力強化に向けた組織再編を積極的に実施し、新たな企業価値の創造を目指します。

【Q3】 グループシナジーの創出について、従来より、かなりグループ間でのシナジーは創出されていたように思う。今回のグループ再編で、さらにどのような踏み込んだシナジーを期待しているのか？

【A3】 これまでもシナジーを創出してきましたが、それは主にP/L的なシナジー、つまり事業の協力関係による収益面でのシナジーが中心でした。今後は、これに加えてB/S的なシナジーの創出を加速させていきたいと考えています。

具体的には、大きな会社からまず格付けを取得し、社債発行などで、独自の資金調達を可能にしていきます。また、会計基準もJGAAPからIFRSへの変更を進めており、グローバル基準での経営体制を整えています。

私どもはこれまで、本体が空母のような存在となり、各社が全力で航行するような形でグループ経営を行ってきましたが、今後は複数の中核企業、いわば複数の空母による成長推進体制を構築していきたいと考えています。

●株主還元

【Q4】 100億円の自社株買いについて、なぜこのタイミングなのか、また、金額の根拠について聞かせてほしい。

GMO INTERNET GROUP

- 【A4】 当社は、2006年から2007年にかけての金融事業における課題により、株式の希薄化が生じました。この点について、投資家の皆さまに対して、当時の発行済株式数まで回復させるという約束をさせていただきました。2015年7月30日に開示した目標の達成に向けて、着実に取り組みを進めているところです。
- まずは投資家の皆様とのお約束を早期に履行したく、その意志としての追加的自己株買いであります。また金額については、経営に対する確信度合いの表れとご認識ください。
- 【Q5】 グループ各社が同じタイミングで株主還元策の変更（配当性向の引き上げ）に踏み切った背景について教えてほしい。
- 【A5】 まず申し上げたいのは、これは私の判断ではなく、各上場企業が独立した取締役会での議論を経て決定したものだということです。
- ただし、私自身、40年の投資経験と25年以上の上場企業経営者としての経験から、株価・時価総額の形成には、成長率と配当利回りという二つの重要な要素があると考えています。
- 近年、東証の改革を受けて、多くの上場企業が株主還元を強化する中、当社グループは長らく還元方針を変更してきませんでした。その結果、相対的な位置付けが低下してきたことは否めません。
- そうした状況を踏まえ、私は投資家、経営者、そして株主としての立場から、各社に対して意見を申し上げました。ただし、最終的な判断は各社が独自に行ったものであり、その結果として今回の還元強化の動きが実現したということです。

以上